

今工会報

第 3 6 号

発行所

今 工 会 事 務 局

☎557-0024

大阪市西成区出城1-1-6

大阪府今宮工科高校内

電話 06 (6631) 0055～7番

編集発行人 吉 田 信 夫



今工会の皆さん、益々、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。今年は、2年に一回の総会の年であります。皆さんとお会いするのを楽しみにしております。

明治維新の研究で大変有名な、歴史学者の奈良本辰也先生のお宅を訪問した時のことです。お通し頂いたお部屋正面に、「狂」という字の変額が掲げられていました。この書は、松下村塾の吉田松陰の筆によるもので、新しい日本を築くためには、狂のように、真剣に、本気で、誠実に、闘わないと、何事も成功しないという松陰の決意の書だそうです。

我が母校の校歌の中にも、堅忍不拔という句があります。広辞苑によると、「我慢強く、耐え忍んで、心を動かされないこと」とあります。

私は、「狂の精神」そして「堅忍不拔」この言葉が、大好きです。

今、わが国は、政治も、経済も、新しい時代を目指して、大きな変革のど真ん中にあります。このような時代の中であって、今、母校の発展と、後輩の皆さんのために何が出来るか、どうすれば良いかを、皆さんと共に考え、議論し、少しでもお役に立てるよう全力で頑張っております。皆さんのご協力を心よりお願い致します。

今工会会長 峯 山 昭 範

2008年今工会総会のご案内

2008年度の総会を下記の日程で開催いたします。
ご案内申し上げます。

2、3年に一度の総会をという方針で進めています。
ぜひ多数の会員のみなさんのご参加をお願いいたします。

記

日時 10月19日（日）11時～3時

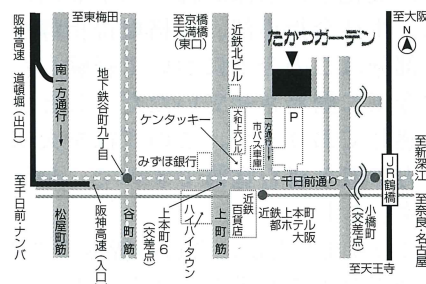
場所 上六・高津ガーデン・8階たかつ

会費 5000円

出欠を、返信はがきで、9月20日までに、
よろしくお願いいたします。



現在の正門



近鉄上本町駅から(徒歩)……………約3分
地下鉄谷町九丁目駅から(徒歩)……約7分

ご挨拶

学校長 山脇 正隆

会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動の充実・発展に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年、3月1日の定時制課程卒業式で、今宮工業高校として最後の卒業生を、新生今宮工科高校から最初の卒業生を送り出しました。3月5日には、今宮工科高校全日制の一期生が卒業しました。

そして、3月31日をもって、歴史ある大阪府立今宮工業高校が閉校しました。今工94年の歴史で61年間を占める今宮工業高校の時代は大きいもので、今工のイメージになっています。この歴史を今宮工科高校が引き継ぎ、さらに発展させていかなければなりません。今春、新しい四期生を迎え入れ今宮工科高校の歴史が動き始めています。

昨年も生徒の活躍は顕著なものでありました。今、校長室にふたつの優勝旗を飾っています。ひとつは、大阪府立実業高等学校総合体育大会の総合優勝旗です。府立の実業高校の中で、今宮工科高校がスポーツ部門で一番活躍した証です。また、硬式野球部とバスケットボール部は大阪大会でベスト16の記録を残しました。さらに、陸上部は棒高跳びで近畿大会に出場しました。もうひとつの優勝旗は、マイコンカーラリー近畿地区

大会の総合優勝旗で、3年連続の快挙です。ものづくりの部門では、エコデン大会やエコアートフェスティバルなどでも生徒達の活躍を見ることができました。

定時制課程は、2年連続実業総合体育大会総合優勝し、柔道やバドミントンで全国大会に出場しました。また、韓国語発表大会で優勝しました。

生徒を中心とした新生今宮工科高校生の活躍は今宮工業高校の伝統を引継いでおり、工科高校としての着実な歩みの息吹を感じます。工業の技を深める学校、より高度な技術を学ぶための進学できる学校、幅広い技術・技能を複合的に学習できる学校としてスタートした今宮工科高等学校です。

伝統に培われてきた工業教育をさらに充実させ、生徒の自尊感情を高め、将来に向けた技能・技術の習得を目指しているところです。また、部活動、大学や地域との連携、国際交流などを通して生徒の自発性が高められる教育環境の充実に努めてまいります。そして、教職員一同が研鑽を重ね、今工94年の伝統の上に、「確かな学力」と「豊かな心」を兼ね備えた若者を育成する教育機関として飛躍し、本校の確固たる自信と地位を確立しなければと思っています。

今後とも、本校の発展のため、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



准校長 福岡 優

私は平成19年4月に副校長（平成20年度からは職名が変わり准校長）としてこの伝統ある今工に着任しました。

振り返ってみますと昭和55年4月、電気科教員に採用となり初任者教員としてスタートしたのもこの今工であり、平成4年度まで13年間勤務させていただきました。

その間2回（6年間）の担任、剣道部、写真部、山岳部、体育祭、文化祭、水泳訓練、寒中登山、教務部、生徒指導部、生徒会指導部、資格取得指導など私の教員人生の大部分はこの今工において経験したものです。今回再び今工に勤務させていただくことになり、不思議な縁を感じております。このご縁を大切に、今工の発展に全力で取り組む覚悟ですので、今後ともよろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍、並びに今工会のご繁栄を祈念してあいさつとさせていただきます。



全日制教頭 高嶋 保

本年4月1日教頭として着任いたしました。何卒よろしくお願いいたします。

大阪の工業高校の中でも有数の歴史と伝統を持つ今宮工科高校に赴任することになりその責任の重さを感じております。幸いにも明るく元気な生徒諸君と建学の意気盛んな先生方に迎えられて少しホッとしています。

今宮工科高校として再スタートし、大きな変化の中で、「専門の深化」と「高等教育機関への接続」という理念を二本柱として「工業教育」＝「ものづくり教育」を展開していますが、その成果が、第1期生の進路状況から読み取ることができます。長い歴史の中で培われてきた今工の「ものづくり」の土壌を活用して生徒を育成していくことが大切であると考えています。

私も今工の一員として、今宮工科高校の発展のために微力ではありますが精一杯がんばっていく所存ですので、今後とも今工会の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

会員の皆様のご健勝と益々のご活躍と今工会のご繁栄を祈念いたしましてご挨拶といたします。



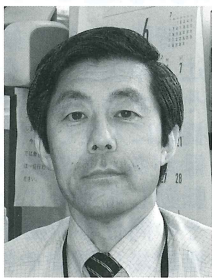
定時制の課程教頭

横谷 啓介

今工会の皆様にはますますご清祥のことと存じ上げます。

今宮工科高校が新しくスタートした平成17年4月1日付けで全日制の教頭として着任し、平成19年からは定時制教頭として今工勤務も4年目を迎えることになりました。この間、新校におきまして恙なく教育活動が進展しておりますのも、今工会会員の皆様の物心両面に渡るご支援があればこそ可能なのだと感謝いたしております。

定時制の課程では、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実に努めています。特色として、単位制、多様な選択科目の開設、ガイダンス機能の充実ににより卒業支援を図っています。今宮工業が今宮工科になりましても、「今工」の卒業生のネットワークが広がり続けますように、会員の皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成19年度会務報告

- 役員会 5回開催（5月、7月、9月、12月、2月）
- 役員会で委嘱された役員指名委員会を8月に開催。
- 常任理事会 9月22日、本校今工会館にて開催。
- 幹事・理事会 10月20日、天王寺区たかつガーデンにて開催。新役員（任期2年）の承認を受ける。
- 新しい取組みとして、新幹事の今工会への関心を喚起する目的で、卒業式後に役員と新幹事の昼食会をもち、今工会の歴史や運営などについて説明。

平成19年度 会計決算報告

収入の部

項 目	金 額	備 考
前年度繰越	24,873,065	
会費収入	2,686,000	全日制 247名 定時制 89名
銀行利息	40,727	
雑収入	185,000	理事会会費
郵送協力金	0	
合計	27,784,802	

支出の部

部 局	項 目	支 出 額	備 考
庶 務	理事会・幹事会費	395,316	
	学校行事関係費	148,000	
	職員転退職記念品費	95,000	
	慶弔費	51,710	
	庶務部費	0	
編集部	会報代	0	H19発行なし
	会報郵送費	0	
	会報発行諸費	0	
	編集部費	0	
事業部	支部・クラス会補助費	30,000	5000円6件
	新卒業生資料代	0	
	広報関係費	4,200	
	事業部費	0	
会計部	会計監査費	1,575	
	会計部費	0	
事務局	事務局費	195,431	
	企画室費	4,218	
	調査通信交通費	54,770	
予備費		0	
郵送協力金		0	
合計		980,220	

一般会計 差し引き残高

収入額	27,784,802
支出額	980,220
差引残高	26,804,582

▷周年記念事業基金◁

前年度繰越金	2,272,501
銀行利息	3,989
次年度繰越金	2,276,490

▷部活動振興会援助基金◁

収入の部

前年度繰越金	2,946,131
銀行利息	4,769
合計	2,950,900

支出の部

1. 38回全国高等学校定時制 通信制体育大会出場 補助	54,000
2. マイコンカーラリー全国大会 付き添い補助	84,360
3. 硬式野球部バッティング マシン修理費	299,964
差引残高	2,512,576

会 員 だ よ り



宝物のノート

荻原 正 (昭和34年印刷科卒)

関西線にはSLが走っていた長閑な時代、教室の窓からそのような風景がみられた1950年代。1956年に入学、あっという間に半世紀が流れた。

当時の実習場は、活字の文選台や手動の印刷機それに美術印刷の石版、湿版用の製版カメラもあった。当時でも相当アンティークなシロモノが並んでいたように思う。

新入生にとっては全てが未知の世界で、最新式かアンティークかは問題でなく、技術や用語の習得に懸命だった。

石版印刷の完成までとか、転写石版の実習状況をメモしたノートが私の手元に未だに残っている。今工時代の宝物、知識欲を奮い立たせ、好奇心をそそった時代の象徴である。

今工会役員の木村宇一君とは同級生、3年のとき生徒会役員に立候補し応援演説を頼んだとき、「人前で話なんか」と渋られたが結局「野球部の木村やミノハラをたのむ」と最も短い演説をしてくれた。しかし無投票当選、今も二人の笑い種である。

卒業し勇躍、産経新聞社に入社、写真製版部に配属され、その後管理部門にかわった。

入社直後の出来事。タオル鉢巻をし、耳に鉛筆を挟んだ変なおじさんが「文化部の福田です」と言って訪ねてきた。

「会長が参議院選挙に出馬しているので選挙運動を手伝ってほしい」との依頼だった。その鉢巻姿の変なおじさんが、後に文壇にデビューする司馬遼太郎のサラリーマン姿だったのである。とにかく当時新聞社には変わった人材が多かったのである。

その司馬さんには仕事で会ったのは30年後、「最澄と空海—平成の検証」シンポジウムの依頼だったが、さすが選挙運動時の話は遠慮した。

印刷畑を離れて30年余りはひたすら企画部門で文化やスポーツのイベント業務で奔走していた。国内外の美術展開催や能・狂言、上方芸能の企画プロデューサー、大阪国際女子マラソン事務局長などに取り組んだ。「常に好奇の眼差しを持ち、やり通すこと」の信念で。今工時代に示唆してくれたあの宝物=ノートを時に思い起こすのである。

(元産経新聞事業局長、現サンケイビルテクノ顧問)



北海道より

亘 信夫 (全機械S43)

皆様こんにちは、私は昭和43年に機械科M3D (担任：辻 卓夫先生) を卒業しました。それから当時長柄にありました日本橋梁に入社し鋼橋の設計に携わり、縁があつて昭和49年に札幌営業所に転勤し北海道に永住となりました。その間仕事の関係で山奥や島まで架橋現場に調査や打ち合わせで全道くまなく走り廻り、また仙台や東京にも転勤になって各地の橋を見聞し、未だ営業マンとして現役生活をすごしております。この間平成14年には札幌に戻るため一旦日本橋梁を退職し、酒井鉄工所に再就職しましたが惜しむかな創業100年を目前に民事再生になりました。



拾ってくださる方があり、またまた大阪の栗本鐵工所に入る事が出来まして、現在は北海道支店に勤務しております。各社共今宮工業卒業生が多く在籍しておられまして、職域会はなかったがご活躍なさっていました。

我々クラスメートは現在でもわりあい連絡を取り合い同窓会も行っています。次回は来年の還暦記念に開催予定です、先生にもお元気でお会いしたいものです。残念ながら物故者になられた親友の前田君や長畑君他何人かおられます。私の兄で亘 寿喜 (昭和38全機) も昭和52年に若くして病死しました。お互い健康でいたいものです。

さて北海道の暮らしですが、札幌は年間降雪量が約5mもあり、最低気温は-10℃以下になる日もあり半分は冬です。また春は5月に桜と梅が咲き、短い夏と早い秋があります。けれども自然が未だ豊かで、私は今もニセコやルスツでグレンデスキーや近郊ハイキング・サイクリングを楽しんでいます。

また食の王国として、アスパラ・じゃがいも・とうもろこし・いかさし・石狩鍋・ジンギスカン&生ビールで食べ尽くせません。

これらとすてきな家族が私を北海道に止めるのでしょうか、皆様も是非お越し下さい。

「大阪今工会」の“会旗”見つかる!

体育館倉庫の大掃除で見つかりました。昭和5年今工会の会章が制定され現在にいたっていますが、会旗はありませんでした。昭和16年、今宮職工学校から今宮工業学校、第2工業学校になったとき、今宮職工学校同窓会が大阪今工会と改称されました。このとき、夜間部本科機械科大正8年卒業の島村善次郎氏が寄贈されたのがこの旗で、金具や周囲の飾りが傷んでいましたので、いま修理をしています。

修理後資料室に展示します。



インタビュー

書道家 宮田 功氏 (号鶴聲)
昭和27年機械科卒

長居公園近くにある書道教室鶴聲書院をお尋ねしました。駅まで15分の道を迎えに来てくださり、教室への道を含め2時間お話を伺うことができました。

入学は中学校からでS21年、当時は今宮工業学校、S23年新制高校・今宮工業高校となり27年に卒業され産経新聞KKに入社。S49年、奥さんがご病気になられ退職。43年から始めていた書道教室1本で今日まで続けておられます。

「今工の先輩に書道家近藤撰南先生、甫田鶏川先生がおられるのに」と遠慮されていましたが、宮田さんも日本書道会会長、日本書作家連盟副会長、日本墨遊会代表、産経国際書会審査会員などなど、まさに日本書道界で活躍されておられる重鎮です。



「2部授業であったこと、大国小学校で授業を受けたこと（教室棟が戦災で消失）、22年天皇が行幸されたことなど覚えています」

「新聞部で、今工新聞を発行。今宮高、堺工など8校で南大阪高校新聞研究会を作って毎月1回勉強会をしました」「そんなこともあって、3年になって新聞の仕事をしたく大学へいきたかったが、結局産経新聞社に就職しました」



戴いた書

「功は不舍るに在り」荀子

学問修行は継続して中止しないことが大切である

思い出ノートを見せていただきました。同級生とのショット、箱根修学旅行の写真やスケッチ、新聞クラブの写真など思い出がいっぱい詰まったノートでした。

書道部の部長をされていました。私も書道部の部長をしましたので、話が弾みました。

「文化祭のあと先輩と“なんば”へ出て打ち上げ、終電に乗ったが寝てしまい終点まで。車掌に事情を言うと、僕も明日ここから天王寺への始発、ここに泊まれと、寒いときで火をたいてくれて“うどん”までとってくれた。のどかな時代の思い出です。」などなど話のつきない2時間でした。

今工会に書を一幅いただきました。

(インタビューア:
吉田信夫)

思い出ノート



変わった人生？ 野田 正人

(昭和48年電気科卒)
(立命館大学産業社会学部教授)

34年前に、今工を留年の末にやっと卒業させてもらってから、いささか変わった人生を歩ませていただいております。文学部にすすみ、非行臨床に関する国家公務員を経て、今は京都の大学で社会福祉学や教育臨床学、特に非行や児童虐待、不登校といった子どもの課題に関することを専門に研究して20年になります。

昨年は1年、中国の蘇州で現地の不登校やいじめに関する研究をしていましたが、近くには上海、昆山や無錫という日系合弁企業の集中地区がありますので、同窓諸氏で出張される方も多いと聞きました。

今の中国は、四川地震で大騒ぎですが、国全体は北京オリンピックと上海万博の好景気に沸いており、農村部から上海など沿海部の豊かな地域に大量の農民工と呼ばれる出稼ぎ労働者が集まって来ています。それでも人手不足は解消できず、



各都市はあの手この手で農民工を優遇しています。一方で四川省もそうですが、農民工を出す地域では、働き手という働き手をみな都会にとられ、高齢者と子どもだけが残されて、その人たちを保護する政策が行われても十分ではなく、農民工の事故や行方不明なども多く、深刻な家族問題が多発しています。私の今工時代の日本のようなのです。

このような隣国の状況をう렐いていたところ、先日、厚労省が平成17年の市区町村別平均寿命というショッキングなデーターを発表しました。それによると、全国で男性の平均寿命が短い、ワースト1位が大阪市西成区で73.1歳。ワースト2位の青森県北津軽板柳町の75.2歳と比べても2歳以上短く、阿倍野区が78.3歳、天王寺区が78.5歳ですから、区をまたぐだけで5歳も違うというのは実に異常なデーターです。今工の同窓諸氏は、このようなデーターの理由を体感しているのですが。



趣味を広げて 谷口 賢祐(昭和35年機械科卒)

「献燈の 並ぶ鞍馬や 青葉風」

私は、大阪に本部がある全国組織のナルクボランティア(NALC)に入って、「自立・奉仕・助け合い」の活動をしています。会費は年3000円で、時間預託制度と言って奉仕した時間は1時間1点の預託時間を通帳にカウントしてゆきます。将来ボランティアが必要なおき、預託に見合った時間のボランティア提供を受けることができるしくみです。

毎年、大阪で総会と親睦会があり、そのあと関西の近郊を旅しています。そのときスケッチをしたり俳句をつくったりしています。今回は鞍馬と貴船に立ち寄りました。最初の俳句はそのときつくったものです。



他に旅する機会が多いのは「静岡県巨樹の会」で年4回日本全国の巨樹を観て廻ります。7月に角館から秋田・白神の方面に行きます。旅先で巨樹の写真を撮って、後日絵日記に描いたり、句を詠んだりします。俳句を始めたのは、10年前で毎月句会に行っています。中々奥が深く、まあまという句ができるのは、5句あるかどうか、2,3年を比較すると進歩成長しているかわかりませんが、10年前の句を見ると少しは進歩していると、自分で慰めたりしています。「継続は力なり」と言い聞かせて、そこそこ楽しんでやっているとこの感じがボケないことは確かだと感じます。

定年の二年前に早期退職しまして、造園・庭木の実技の学校に6ヶ月通いました。その時に気に入った庭石や枝の竹割りなど美しいものがあると、デジカメで写真を撮っていましたが、先生が「写真では、よく見えない。スケッチすればよく判るし、頭の中にも記憶が鮮明になる」と教えられて、昼の時間にスケッチをしたり、植木の手入れに行った時は、校舎の絵や広場の彫刻・遊具などを描いて絵手紙を送ったりしました。それや、何やらで、今では絵は鑑賞する世界から、描くようになった次第です。日本画教室へ通うようになりましたが、毎日、岩絵の具を溶して、ゆっくり、ゆっくり作品を仕上げていく日本画の過程が、私の性に合っているのだと思います。イメージに近い作品ができた時は、うれしいものです。特に人物画を多く描いています。90%完成の人物画です。

(浜松市在住)



「青梅の 策にあけられ 頬赤む」



定年退職に際し思うこと

谷 正英(昭和48年定時制機械科卒)

今年の3月、永年勤めた消防署を大過なく定年退職することができました。

ふと振り返ってみますに、今工(定)時代があったればこそだともっています。とくに授業が終わってからのクラブ活動(柔道)で忍耐力が培われてと思っています。

昼間は金型製作の工場で汗を流し、急ぎ足で校門に入るも仕事の疲れを感じての授業、腹ペコでのクラブ活動、よう、体がもったもんやなあ、と自画自賛しています。さすがに当時は今(メタボ)とは違って無駄な肉はなかったような気がします。

それまでの仕事とは畑違いの消防という職場を選しましたが、あらゆる知識を駆使しての職場だったので今工で習得した知識は存分に生かされました。

現在、工業の世界がコンピューターの時代に大きく変わったことはそうした仕事に携わっていない私にも感じられます。これからもっともっと変わっていくことでしょう。しかしそうした変化に寂しさと不安を感じます。と言いますのも最近痛ましいニュースばかり、便利な世の中は結構ですが人間の心も機械になっていくような気がしてなりません。

最後になりましたが、母校今宮工科高校のさらなる発展を期待しています。



第8回高校生ものづくり
コンテスト全国大会

11月2日、3日

全国産業教育フェアが
大阪で

実業学校の高校生の発表の場。
大阪南港ATCを中心に。
ものづくりコンテストも。
今工生も
頑張ります。



さんフェア大阪2008

編集後記

この度は、多くに方々が原稿依頼に応えていただきました。ありがとうございました。今後は現職の若い会員の方々にもお願いしたいと思っています。ご協力お願いいたします。

編集部へのご意見、ご要望事務局までよろしくお願いいたします。

母 校 通 信 技能検定に取り組む機械科

これまでは、計算技術検定、情報技術検定、危険物取扱い技術者、ボイラー技師2級、ボイラー取扱い技術講習会などの資格を取得することが可能であった。



しかし、機械実習で学んだ技能に関する資格は、唯一ガス溶接技能講習会のみで、将来を展望すると、加工系での技能の深化を目指すことが必要ではないかと考えた。

折りしも平成13年に、旋盤技術競技会がスタートし、同時に高校生ものづくり全国大会の近畿地区予選も兼ねておこなわれることになった。また、文部科学省「目指せスペシャリスト」に関する研究開発校の募集も始まり、将来のスペシャリストを育てることの重要性が盛り上がっていた。高度な技術・技能を継承していく若い技術者・技能者を育てることこそが工業教育の大きな目標であることを鑑みて、その一環としての「技能検定」などの国家試験を生徒に積極的にとらせることを決め、取り組みを始めることになった。

これまでから、3年次の連続4単位の選択科目に10名～15名の生徒を二人の先生が指導する「切削加工」を取り入れていたので、この科目の中で「技能検定」に取り組めないかと考えた。しかし、経験がないのに指導できるのか、高い検定料をどうするのか等すんなりとは賛成してもらえなかった。指導者について検討していたところ、本校の学校協議会委員で技能検定に携わっておられる方がおられ、その方の紹介で大阪府職業能力開発協会に出向き、技能士の派遣をお願いした。そして元松下電器産業の熟練技能士の方に次年度から来ていただけることになった。

平成15年度から「技能検定」実施のはこびとなった。この年は11名が「切削加工」を選択し、趣旨を説明したところ全員が受験したいということであった。しかし部活動とのかかわりなどで受験申し込みをしたのは7名であった（受験料13600円、材料費は取らないことにした）。

4時間のうち1時間を切削理論の座学、3時間を実技練習にあて、大隈6尺旋盤6台とワシノ5尺旋盤5台を交代で使わせ練習に入った。測定具は加工系の実習からかき集め、キャリパ形内側マイクロメーターは他の消耗品費を削って買ってもらったが、全員分を揃えることはできなかった。

7月から技能士の方にきていただき、まず模範実技を見せてもらった。夏休みに入って3名が脱落した。

8月に検定の会場となる、松下電器人材開発センターに出向いて、検定に使われる池貝旋盤（今工にはないので）に慣れるための練習にいく。旋盤4台の借用料は

PTAから支出してもらった。

8月29日実技試験、1名風邪で欠席3名が受検。31日学科試験（大阪商大）。2名合格で1名は学科のみ合格という結果となった。

平成16年実技試験の会場を今工でやってみないかという打診があり、機種、機械の癖、場慣れ、検定員を出せること等多くの利点があることから受け入れ、かつフライス盤、マシニングセンター作業も受検できることになった。

多くの条件が整い、「切削加工」を選択したものは全員受けることを決め、そのため練習鋼材費として5000円を徴収することとした。

17年度は、1年次の旋盤実習に加え、2年次でも旋盤実習を入れることとし、7、8時間目に特別選択科目「加工技術」前期1単位を設定し、選択科目の収容制限からどうしても受検したい生徒と2級をめざす生徒が受講できるようにした。

18年度、松原高等技術専門学校（無くなったため）から大隈旋盤5台を譲り受け機械の台数が増えた。

以下が、ここ5年の結果である。

年度	種 目	受検数	合格	備 考
15	普通旋盤3級	3年 7	2	学科のみ 1
16	普通旋盤3級	3年 6	3	実技のみ 2
		2年 4	1	実技のみ 3
	フライス盤3級	3年 5	0	実技のみ 5
	マシニング3級	3年 2	1	実技のみ 1
17	普通旋盤3級	3年 9	3	実技のみ 6
		2年 7	4	実技のみ 3
		3年 2	0	前年実技
	フライス盤3級	3年 5	3	実技のみ 1
				学科のみ 1
	マシニング3級	3年 2	1	実技のみ 1
18	普通旋盤3級	3年 11	7	実技のみ 3
		2年 1	0	実技のみ 1
		3年 3	2	前年実技
		3年 5	2	実技のみ 2
		3年 2	1	学科のみ 1
19	普通旋盤3級	3年 10	5	実技のみ 3
		2年 8	5	実技のみ 3
	フライス盤3級	3年 5	5	
	マシニング3級	3年 5	3	実技のみ 2

16年度一人が技能五輪大阪府予選普通旋盤作業に出場し実技2級が免除となった。

こうした取組みの中、高校生ものづくりコンテスト大阪府、近畿大会で優勝し全国大会への出場や技能五輪候補生として就職するなど、徐々に技術・技能の深化をめざす教育の成果が現れてきている。

2006年度 総 会 2006年10月21日

たかつガーデン

2001年に久しぶりの総会を開き、その後理事会で討議を重ね、今後2、3年に一度の総会開催を決め、2006年10月21日総会を開きました。120名が参加され、久しぶりに顔を合わせた方々も多く、話の尽きないひと時を過ごしました。ラテン音楽・ケルマントゥの演奏を聴きながらごやかに懇親会が行われました。

